

## 県内企業の夏のボーナスは一人当たり前年比 8.5%増

———埼玉県内企業 2010年夏のボーナス支給状況アンケート調査———

2010年冬のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施したところ、一人当たりボーナス支給額は前年実績から+8.5%の増加となった。前年が大きくマイナスとなったこともあり、収益が改善しているところを中心に、ある程度ボーナスを回復したものとみられる。ただ、雇用者数の減少から支給人数は減っており、ボーナス支給総額は前年比+5.6%の増加にとどまった。(7月中旬実施。対象企業972社、回答企業297社、回答率30.6%)

○2010年夏のボーナスの支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は359千円となり、前年実績の331千円に比べ8.5%の増加となった(ボーナス支給実額を記入いただいた企業210社を集計)。

一人当たり支給額は前年度調査で▲17.1%と大きく落ち込んだこともあり、収益の改善しているところを中心に、ある程度ボーナス支給額を回復させたものとみられる。

○ボーナス一人当たり支給額の前年対比伸び率の推移をみると、2005年夏から2006年冬までは4期連続で前年対比プラスになっていたが、2007年夏以降は2009年冬まで6期連続(3年間)前年実績を下回っていた。今回プラスとなるのは7期振りである。

増加率も+8.5%と比較的高いものとなったが、前年の▲17.1%のマイナスを上回ることはなく、長期的な低下傾向を続けてきた後のため、減少が始まる前の水準に比べればいまだ低いものにとどまっているものとみられる。

### ○アンケート回答企業の2010年夏のボーナス支給総額

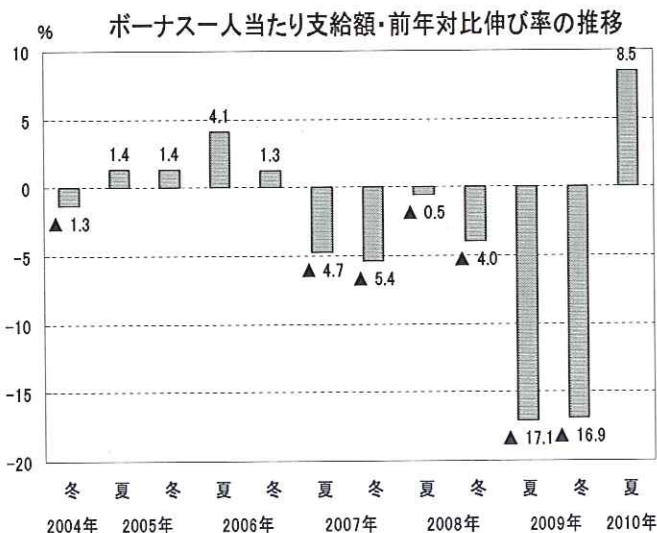
額は85億68百万円で、当該企業の前年実績81億16百万円から+5.6%の増加となった。一人当たり支給額は前年比+8.4%であったが、支給対象人員が▲2.7%減少したことにより支給総額は一人当たり支給額に比べ増加率は低くなった。埼玉県内の雇用者数は2009年以降減少を続けており、支給対象人員の減少は雇用者数の減少を反映しているものとみられる。

ボーナスの減少傾向には今回歯止めがかかり、その増加率も高いものとなったが、雇用・所得の先行きに対する不安感も依然根強いことなどから、この夏のボーナスの増加が消費を持ち上げる力は弱いものとみられる。

2010年夏のボーナス一人当たり支給額

(社、千円、%)

	企業数 (2010年)	一人当たり支給額		
		2010年	2009年	前年比
全産業	210	359	331	8.5
製造業	89	401	354	13.3
非製造業	121	335	318	5.3
大企業	19	393	363	8.3
中小企業	191	335	308	8.8



2010年夏のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した（対象企業972社、回答企業数297社、回答率30.6%）。

（1）ボーナス支給実績の有無

2010年夏のボーナスの支給実績をたずねたところ、「正社員・パートともに支給」と答えた企業は全体の50.5%で、2009年夏の支給実績50.2%を0.3ポイント上回った。また、「正社員のみ支給」とした企業は32.4%で、前年実績の33.8%より1.4ポイント減少した。「支給しない」とする企業は17.1%となり、前年実績の16.0%から1.1ポイント増加となっている。景気は回復傾向にあり、企業収益も全体では改善しているが、ボーナス支給状況については昨年と大きな変化はみられない。

業種別にみると、「正社員・パートともに支給」と答えた企業は製造業では58.5%、非製造業では44.5%である。前年実績と比較すると、製造業では2.8ポイントの増加、非製造業で▲1.6ポイントの減少となった。

また、「支給しない」は製造業で16.3%、非製造業で17.7%である。「支給しない」を昨年実績と比較すると製造業では▲3.4ポイントの減少、非製造業では4.4ポイントの上昇となった。

今夏のボーナス支給状況については、非製造業で厳しい状況がみられる。製造業における輸出や生産回復による景気の持ち直しや収益の改善が、非製造業の収益改善等につながる力が弱いとみられる。

2010年夏のボーナス支給実績の有無

単位：%

	合 計	製造業	非製造業	大企業	中小企業
正社員・パート ともに支給	50.5 (50.2)	58.5 (55.7)	44.5 (46.1)	57.7 (57.7)	49.8 (49.4)
正社員のみ支給	32.4 (33.8)	25.2 (24.6)	37.8 (40.6)	34.6 (38.5)	32.2 (33.3)
支給しない	17.1 (16.0)	16.3 (19.7)	17.7 (13.3)	7.7 (3.8)	18.0 (17.2)

※（ ）内は2009年実績

## (2) 一人当たりボーナス支給額

2010年夏のボーナスの支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は359千円となり、前年実績の331千円に比べ8.5%の増加となった（ボーナス支給実額を記入いただいた企業210社を集計）。一人当たり支給額は前年度調査で▲17.1%と大きく落ち込んだこともあり、収益の改善しているところを中心に、ある程度ボーナス支給額を回復させたものとみられる。

業種別にみると、製造業では401千円と、前年の354千円から13.3%と大きな増加となった。非製造業では335千円で前年の318千円から5.3%の増加。製造業では昨年の落ち込みが大きかったこともあるが、生産の増加などから業況や収益が改善しているところが多いものとみられる。一方、非製造業では雇用・所得環境が引き続き厳しいことなどから、収益の改善が遅れており製造業に比べ増加幅は小さくなっている。

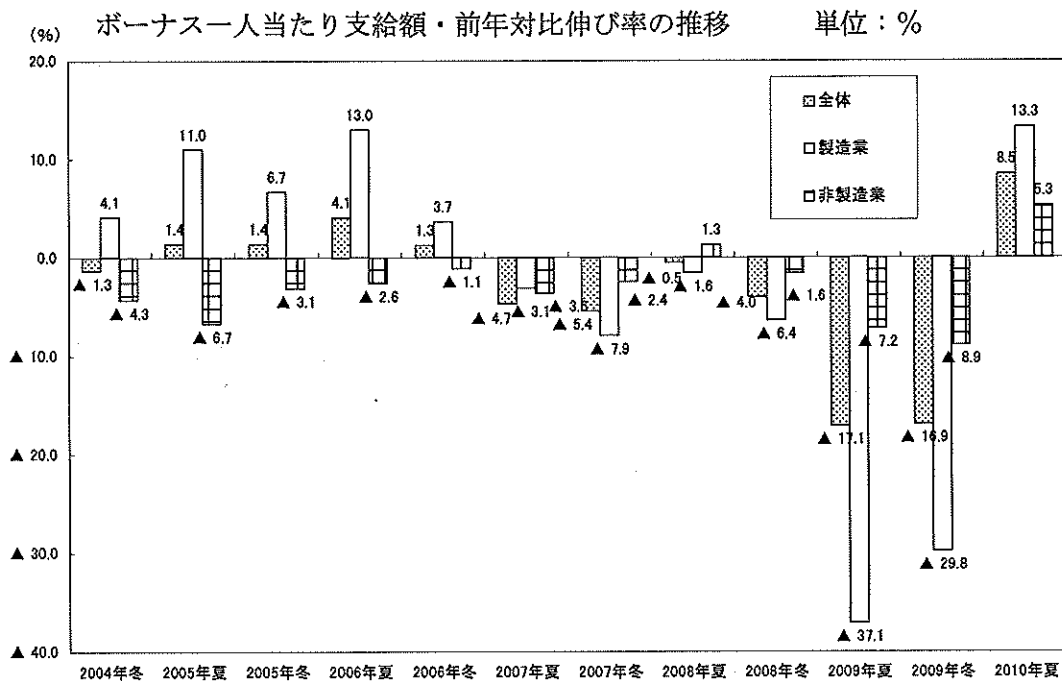
2010年夏のボーナス一人当たり支給額  
(社、千円、%)

	企業数 (2010年)	一人当たり支給額		
		2010年	2009年	前年比
全産業	210	359	331	8.5
製造業	89	401	354	13.3
非製造業	121	335	318	5.3
大企業	19	393	363	8.3
中小企業	191	335	308	8.8

## (3) ボーナス一人当たり支給額・前年対比伸び率の推移

ボーナス一人当たり支給額の前年対比伸び率の推移をみると、2005年夏から2006年冬までは4期連続で前年対比プラスになっていたが、2007年夏以降は2009年冬まで6期連続（3年間）前年実績を下回っていた。今回プラスとなるのは7期振りである。

増加率も8.5%と比較的高いものとなったが、前年の▲17.1%のマイナスを上回ることはなく、長期的な低下傾向を続けてきた後のため、減少が始まる前の水準に比べればいまだ低いものにとどまっているものとみられる。



#### (4) 2010年夏のボーナス支給総額と対象人員

アンケート回答企業の2010年夏のボーナス支給総額は85億68百万円で、当該企業の前年実績81億16百万円から5.6%の増加となった。一人当たり支給額は前年比+8.5%であったが、支給対象人員が▲2.7%減少したことにより、支給総額は一人当たり支給額の増加率に比べ低くなった。埼玉県内の雇用者数は2009年以降減少を続けており、支給対象人員の減少は雇用者数の減少を反映しているものとみられる。

業種別の支給総額の前年比をみると、製造業が+11.9%、非製造業が+1.4%と製造業で大きな増加となった。支給対象人員は製造業で前年比▲1.1%、非製造業で同▲3.6%で非製造業での減少が大きくなっている。

ボーナス支給総額・前年対比伸び率の推移 (百万円、人、%)

	支給総額			支給対象人員		
	2010年	2009年	前年比	2010年	2009年	前年比
全産業	8,568	8,116	5.6	23,833	24,491	▲ 2.7
製造業	3,606	3,222	11.9	8,999	9,101	▲ 1.1
非製造業	4,962	4,894	1.4	14,834	15,390	▲ 3.6
大企業	3,892	3,825	1.8	9,895	10,545	▲ 6.2
中小企業	4,676	4,291	9.0	13,938	13,946	▲ 0.1

(5) ボーナス支給総額・前年対比伸び率の推移

ボーナス支給総額の前年対比伸び率の推移をみると、2009年夏に▲17.6%、同年冬に▲18.0%と大きな落ち込みが続いた後、今回5.6%の増加となった。とくにこれまで大きな落ち込みとなっていた製造業では11.9%と大きな増加となった。

ボーナスの減少傾向には今回歯止めがかかり、その増加率も高いものとなったが、雇用・所得の先行きに対する不安感も依然根強いことなどから、この夏のボーナスの増加が消費を持ち上げる力は弱いものとみられる。

ボーナス支給総額・前年対比伸び率の推移 単位：%

